

東京バッハ合唱団 第123回定期演奏会

— J.S.バッハ日本語演奏 大村恵美子訳詞 —

カンタータ第34番《おお永遠の火よ おお愛の源よ》

O ewiges Feuer, o Ursprung der Liebe BWV 34

カンタータ第23番《主なる神 ダビデの子》

Du wahrer Gott und Davids Sohn BWV 23

《マニフィカト、わが心 主をあがむ》(マリアの讃歌)

Magnificat D-Dur BWV 243



■ジョット
「聖霊降臨 (ペンテコステ)」、左
「エルサレム入城」、右

[ソプラノ] 藤原優花 [ソプラノ] 前田ひより

[アルト] 中島麻紀子

[テノール] 野中裕太 [バス] 及川泰生

[管弦楽] コレギウム・アルモニア・スペリオール・ジャパン (ARS)

[オルガン] 田尻明葉 [合唱] 東京バッハ合唱団

[指揮] 大村恵美子

2025年 5/31 [土] 荻窪教会

日本キリスト教団 (60席)

(JR 中央線/メトロ「荻窪」駅南口 8 分、裏面に地図、電話 03-3398-2104)

6/7 [土] 三崎町教会

日本キリスト教団 (250席)

(JR 総武線「水道橋」駅東口 3 分、裏面に地図、電話 03-3295-4471)

<2回公演>

● 両日とも同内容、14:00 開演 (開場 30 分前)

● 入場無料 (申し込み不要、直接ご来場ください)

[主催] 東京バッハ合唱団 (お問い合わせは、下記まで)

(事務局 : 電話 03-3290-5731、メール office@bachchor-tokyo.jp) →

[協力] 日本キリスト教団・荻窪教会、日本キリスト教団・三崎町教会



■アンジェリコ 「受胎告知」

東京バッハ合唱団 第123 回定期演奏会

曲目ご案内——バッハの教会声楽作品と季節性

今回の定期公演では、J.S. バッハの2曲のカンタータとマニフィカト（マリアの讃歌）をお届けします。

バッハ作品は、教会暦に指定された聖書箇所因んだ歌詞に作曲されます。本日の演奏順とは異なりますが、18世紀ドイツの教会音楽事情に立ち戻り、教会暦に沿って、それぞれの作品鑑賞への手がかりを探ってみます。バッハのドイツと共通する季節感に触れていただきながら、名画の助けも借りて、各曲を身近に感じてください。

●**カンタータ第23番《主なる神 ダビデの子》** BWV 23 ジョットの絵（中央右）は、イエスのエルサレム入城の场景ですが、この数週間前、途上においてイエスの一行は、盲人の必死の懇願を受けました。その叫びが「主なる神 ダビデの子、われを憐みたまえや！」。季節は、冬の終わりの、まだ暗い2月から3月初頭、復活節前第7日曜日。

●**カンタータ第34番《おお永遠の火よ おお愛の源よ》** BWV 34 イエスは十字架上の死を遂げます。復活のキリストは、悲嘆にくれる弟子たちに姿を現し、最後のメッセージを伝えた後に昇天しました。中央左の絵は、それから10日ほどたった日の出来事です。弟子たちの集う部屋に「とつぜん激しい風が吹き、炎のような舌が彼らの頭に灯った」。初夏、復活から50日後、聖霊降臨節第1日、今年は6月8日（日）！

●**《マニフィカト、わが心 主をあがむ》** BWV 243 天使のみ告げを受けた（絵はアンジェリコの「受胎告知」）後、身重の叔母を見舞うと、彼女は聖霊に満たされて、マリアを祝福します。感激したマリアの口について出たことばが「マニフィカト・アニマ・メア・ドミヌム（わが心 主をあがむ）……」以下の讃歌として記録されて、この作品の歌詞になりました。陽光あふれる夏の、毎年7月2日、エリザベト訪問の固定祝日。

出演者プロフィール



■**藤原優花**（ふじわら・ゆうか、ソプラノⅠ）
岩手県出身。岩手大学教育学部、東京藝術大学大学院声楽専攻を修了。東京国際声楽コンクール第3位、日本クラシック音楽コンクール第2位（最高位）等。モーツァルト「レクイエム」、ヘンデル「メサイア」、バッハのカンタータ等のソリストを務める。昨年6月、東京バッハ合唱団「バッハと仲間の音楽会」（荻窪教会、三崎町教会）に出演。

© Ayane Shindo



■**前田ひより**（まえだ・ひより、ソプラノⅡ）
岐阜県多治見市出身。東京藝術大学音楽科卒業、同別科1年在学中（25年2月現在）。第14回東海音楽フェスティバル銀賞、第73回全日本学生音楽コンクール高校の部名古屋大会1位・全国大会1位。美濃の国文化芸術大祭にて青木洋也指揮のメサイアソリスト、東京21合唱団演奏会にて佐々木正利指揮のソプラノソロ2などを務めた。東京バッハ合唱団は今回が初出演。



■**中島麻紀子**（なかしま・まきこ、メゾソプラノ）
東京音楽大学卒業。春の声楽コンクールプロフェッショナル部門ほか入賞・入選。「魔笛」侍女2、「こうもり」オルロフスキー役など多数のオペラでの活躍のほか、バロック音楽や宗教曲のコンサートにもソリストとして数多く出演している。東京室内歌劇場会員。昨年6月、東京バッハ合唱団「バッハと仲間の音楽会」（荻窪教会、三崎町教会）に出演。



■**野中裕太**（のなか・ゆうた、テノール）
山梨県南アルプス市出身。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。卒業時に同声会賞および佐々木成子賞受賞。同声会新人演奏会に出演。同大学院音楽研究科声楽専攻修士3年次に在籍中（25年2月現在）。2023年度「東京藝術大学奏楽堂モーニング・コンサート」にソリストで出演。昨年6月、東京バッハ合唱団「バッハと仲間の音楽会」（荻窪教会、三崎町教会）に出演。



■**及川泰生**（おいかわ・たいせい、バス）
岩手大学教育学部を卒業後、東京藝術大学声楽科を経て同大学院声楽専攻3年次に在籍中（25年2月現在）。第73回、74回藝大メサイア、第41回台東第九公演等にバスソリストとして出演。これまでにグノー「聖チェチーリアミサ」やバッハのカンタータなどのソリストを務める。昨年6月、東京バッハ合唱団「バッハと仲間の音楽会」（荻窪教会、三崎町教会）に出演。

■**コレギウム・アルモニア・スペリオール・ジャパン Collegium Armonia Superiore Japan**（略称ARS）（管弦楽）【下写真：前列で着席】

2018年に誕生した演奏家のための研鑽団体（Collegium）。熱心な演奏愛好家と音楽専攻を目指す学生を対象に、緊密なアンサンブルによる“よりよき響き（Armonia Superiore）”を徹底的に追及することを目的とし、魅力的な指導者を招聘し、机上講習はじめマスタークラスや演奏会実践形式での研鑽を実施している。2019年に当団の小布施・野尻湖コンサートツアーに有志が同行共演して以来、活動理念を共有して協演をつづけている。



●「バッハと仲間の音楽会」(2024/6/8、荻窪教会)

■**田尻明葉**（たじり・あきは、オルガン）【右写真：オルガン席】
東京音楽大学付属高校、東京音楽大学ピアノ科卒業後、桐朋学園大学カレッジディプロマコース、コントラバス科を卒業。モスクワ音楽院常葉学園オーディション合格、選抜によるファイナリストコンサートに出演。ぎふリスト音楽院マスタークラスに参加。2010年別府アルゲリッチ音楽祭にオーケストラのメンバーとして参加。東京バッハ合唱団第117回定期演奏会（2018年12月）に出演以来、多くの公演で協演している。

■**東京バッハ合唱団（合唱）**【右写真：後列】
教会カンタータを中心にJ.S. バッハの合唱作品のみを演奏し研究する団体の草分けとして、1962年大村恵美子の呼びかけで組織された。都内での定期演奏会や各地教会等での特別演奏会を、原則として日本語訳詞（大村恵美子訳）によって上演している。1983年より5度にわたりドイツ各地での公演を果たす。2016年半世紀にわたる日本語によるバッハ演奏活動に対し、第22回エキュメニカル功労賞を受賞した。

■**大村恵美子**（指揮/訳詞）【上写真：中央】
東京バッハ合唱団主宰者。東京芸術大学楽理科・作曲科卒業後、ストラスブール大学および同音楽院で、作曲・指揮・音楽学を学ぶ。在学中よりバッハのカンタータ演奏を志し、留学を終えると同時に東京バッハ合唱団を創立、年数回の公演を実現させつつ今日に至る。現在までにバッハの宗教合唱作品のほぼ全曲の上演用訳詞を完成。その多くを自らの指揮で上演するなど、日本でのバッハ普及に貢献している。

会場へのアクセス

●**日本キリスト教団・三崎町教会**

[下車駅] JR 総武線「水道橋」
駅東口から徒歩3分
[所在地] 千代田区神田三崎町1-3-9
[電話] 03-3295-4471

●**日本キリスト教団・荻窪教会**

[下車駅] JR 中央線/メトロ「荻窪」
駅南口から徒歩8分
[所在地] 杉並区荻窪4-2-10
[電話] 03-3398-2104

